

「楽園」と称されるモルディブ。真っ白なビーチとヤシの木からなる小さな島々。僕が以前、住んでいた南マーレ環礁のある島は、マンタやサメに会える外洋のダイナミックなダイビングポイントに近く、また、島の周りでも潜ることができるハウスリーフと呼ばれるポイントがあることで

有名だった。私はダイビングガイドとて、また、水中カメラを持って、たくさんのゲストと早朝から夜までモルディブの海を楽しんでいた。そんな時、ゲストからよく、「こんな小さな島でよく長く働くことができるね」と質問された。確かに365日、歩いて一周約8分の小さな島に滞在して、たまに買い物で首都のマーレに行くだけでほとんど島から出ることのない毎日だった。言われてみれば、確かにそうだ。当時は、まだ若かったので、いろんな環境に適応できたのか、もしくは「どうにもできない」と諦めの胸中だったのか……。しかし、確かに言えることは、自分たちの生活の場を島だけに限定していなかった。ダイビングやスノーケリングをすることで、周囲の海は私たちの絶好の遊び場となり、生活空間は無限の広がりを見せてくれるように思えた。南の島で長く生活するコツは、陸と海の境界線を失うことなのかもしれない……。

そして、海の中を覗くことと同じくらい大好きだった島の時間は満月の夜のビーチだった。ヤシの木陰から覗く明るい砂地は、月の光で満ち溢れ驚くほど明るい。一步踏み出して、青く柔らかな光に包まれる。それは、あまりにも神秘的で、自分がどこにいるのかわからなくなる。「非現実の世界」に、新しく生まれ変わったような気持ちにさせてくれる。

海、太陽、月、砂浜 椰子、空気。そんなシンプルな要素のミックスが楽園・モルディブの礎となっている。



## モルディブの月夜で生まれ変わる